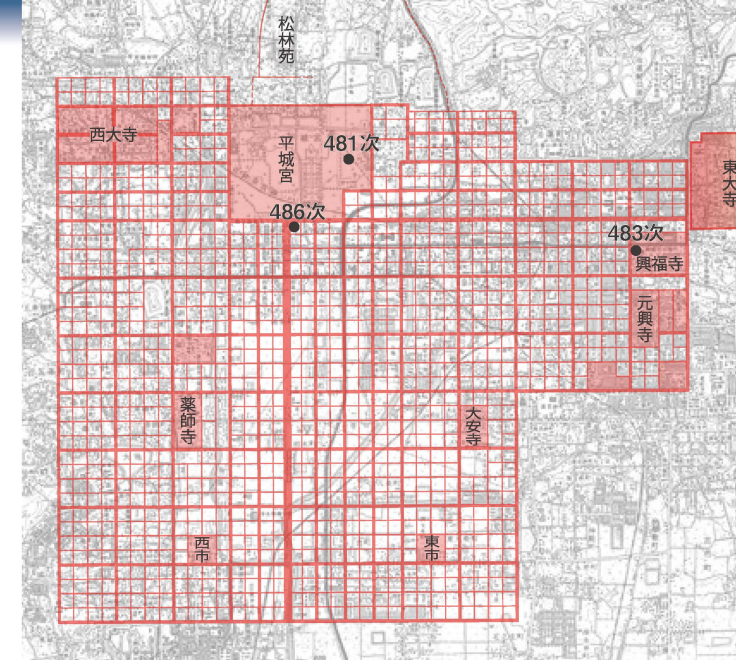


2012年3月10日(土)～5月27日(日)
 9:00～16:30 入館は16:00まで
 月曜休館(月曜が祝日のときは火曜休館)
 平城宮跡資料館 企画展示室



- 平城宮東院地区(第481次)
- 興福寺北円堂院(第483次)
- 平城京左京三条一坊一・二坪(第478・486次)

発掘速報展

平城2011

平城宮跡資料館 春期企画展

同時開催

文化財レスキュー展

主催 / 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

後援 / 文化庁・国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
 奈良県教育委員会・奈良市教育委員会・近畿日本鉄道株式会社
 奈良交通株式会社・株式会社南都銀行・法相宗大本山興福寺

お問合せ / TEL:0742-30-6753

奈良文化財研究所 連携推進課

ギャラリートーク

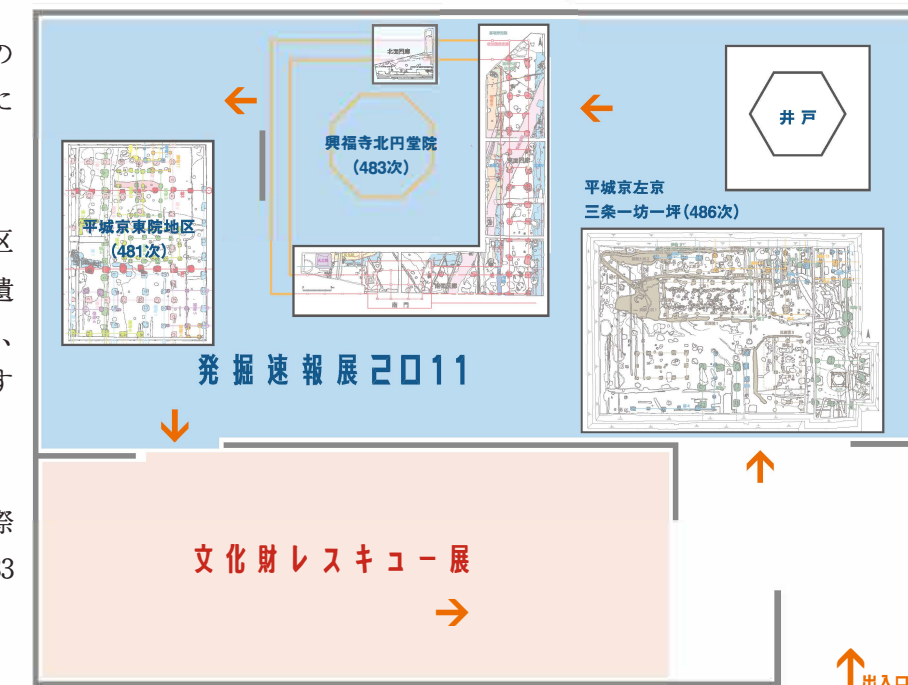
企画展示室(展示会場)にて

会期中毎週金曜日 14:30～ ※5月4日は除きます

今回の展示では、紹介する3つの遺跡の「遺構平面図」を、10分の1の大きさに床に展示しています。

「遺構平面図とは発掘調査した際に調査区全域を計測した平面図です。柱穴や溝など遺構の位置や形が正確に記録されているので、建物の規模や配列、遺跡の性格などを検討するのに欠かせないものです。

10分の1の縮尺では、発掘現場での実際の1mが10cmになります。床の図面上で33cmだった場合、実際の長さは、3.3mです。



それでは、発掘現場を探索するような気分で、図面の上を歩きまわってみて下さい…

研究員による ギャラリートーク 14:30～ 展示会場にて

- 3/16 平城宮東院地区
- 23 興福寺北円堂院
- 30 文化財レスキュー(保存処理)
- 4/6 平城京左京三条一坊一坪
- 13 文化財レスキュー(保存処理)
- 20 興福寺北円堂院
- 27 平城京左京三条一坊一坪
- 5/11 文化財レスキュー(被災地での活動)
- 18 平城宮東院地区
- 25 平城京左京三条一坊一坪

「発掘速報展 平城 2011」は、奈良文化財研究所が 2011年に平城宮跡および平城京跡でおこなった発掘調査の成果の一部を紹介したものです。成果の詳細は、「奈良文化財研究所紀要2012」(2012年6月刊行予定)で報告します。発掘調査速報は、『奈文研ニュース』(年4回刊行)にも随時掲載しています。あわせてご覧ください。

「文化財レスキュー事業」に関する詳しい情報は、文化庁のホームページに掲載されています。

http://www.bunka.go.jp/bunkazai/tohokujishin_kanren/index.html

※テーマは予告なしに変更することがあります。

編集：奈良文化財研究所 展示企画室 / デザイン：藍寧舎 / 印刷：能登印刷株式会社

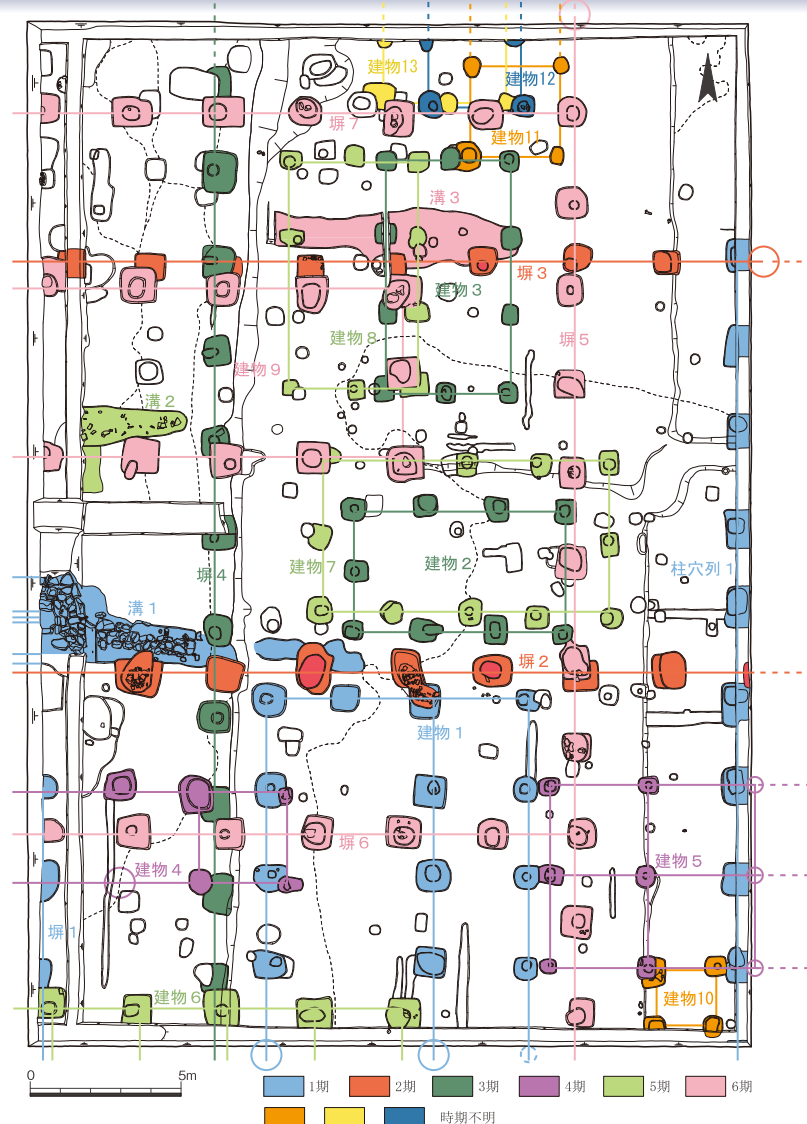
とういん
平城宮東院地区 第481次 2011.4.4～6.24

平城宮には、東側に張り出し部があり、その南部分を「東院地区」と呼んでいます。東院地区には、奈良時代を通して皇太子や天皇の宮殿がおかれ、儀式や宴会に利用されていたことが知られています。

地区の西北部、昨年度調査(第469次)の東隣を調査しました。



▲石組溝 (西から)



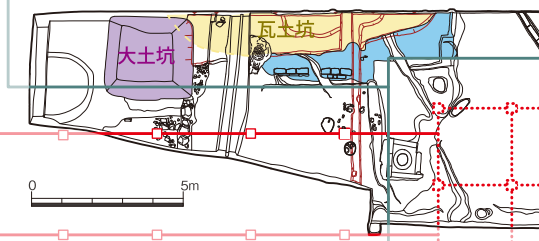
建物・石組溝 6時期にわたる遺構を検出し、これまでの調査と同様に、建物群の頻繁な建て替えがあったことがわかりました。また昨年度調査で見つかった石組溝の続きを確認しました。

▼調査区全景(西から、6期の整然とした区画)

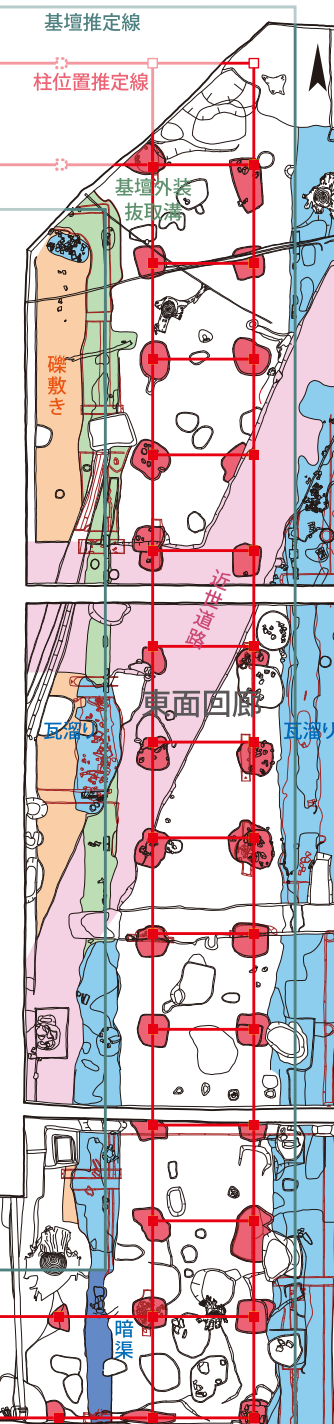


こうふくじ ぼくえん どういん
興福寺北円堂院 第483次 2011.7.1～10.11

西面回廊



南門



北円堂院は、藤原不比等の一周忌のため 721 (養老5)年に造営された御堂です。その後1049 (永承4)・1180(治承4)年に火災にあい、北円堂はその都度再建されましたが、回廊については詳細が不明でした。

回廊 基壇外装(地覆石)や礎石抜取穴などが見つかり、回廊の規模(東西44.3m、南北43.5m)を推定できました。これは、『興福寺流記』の記載と一致します。検出した地覆石の内側に古い地覆石の抜取溝があったこと、地覆石の一部は焼土面を掘り込んで抜き取られていたことから、回廊は永承火災後に改修・再建され、治承火災で再び焼けたことがわかりました。



▲北面回廊(南東から)

平城京左京三条一坊一・二坪

第478次 2010.12.8～2011.3.30
 第486次 2011.9.27～12.27

調査地は、平城宮の正門である朱雀門のすぐ南東にあたります。昨年度の調査(第478次)では、南北に長い調査区を設定し、大きな井戸や掘立柱建物の一部を見つけました。今年度(第486次)は、その北側部分を西に拡張して調査しました。

工房跡 鉄鍛冶工房を3棟見つけました。掘立柱建物のなかに、鉄を加熱した炉跡と炉に風を送るフイゴの設置跡(フイゴ座)、炉から取り出した熱い鉄をのせて打つ台(金床石)の跡がセットになって並んでいました。

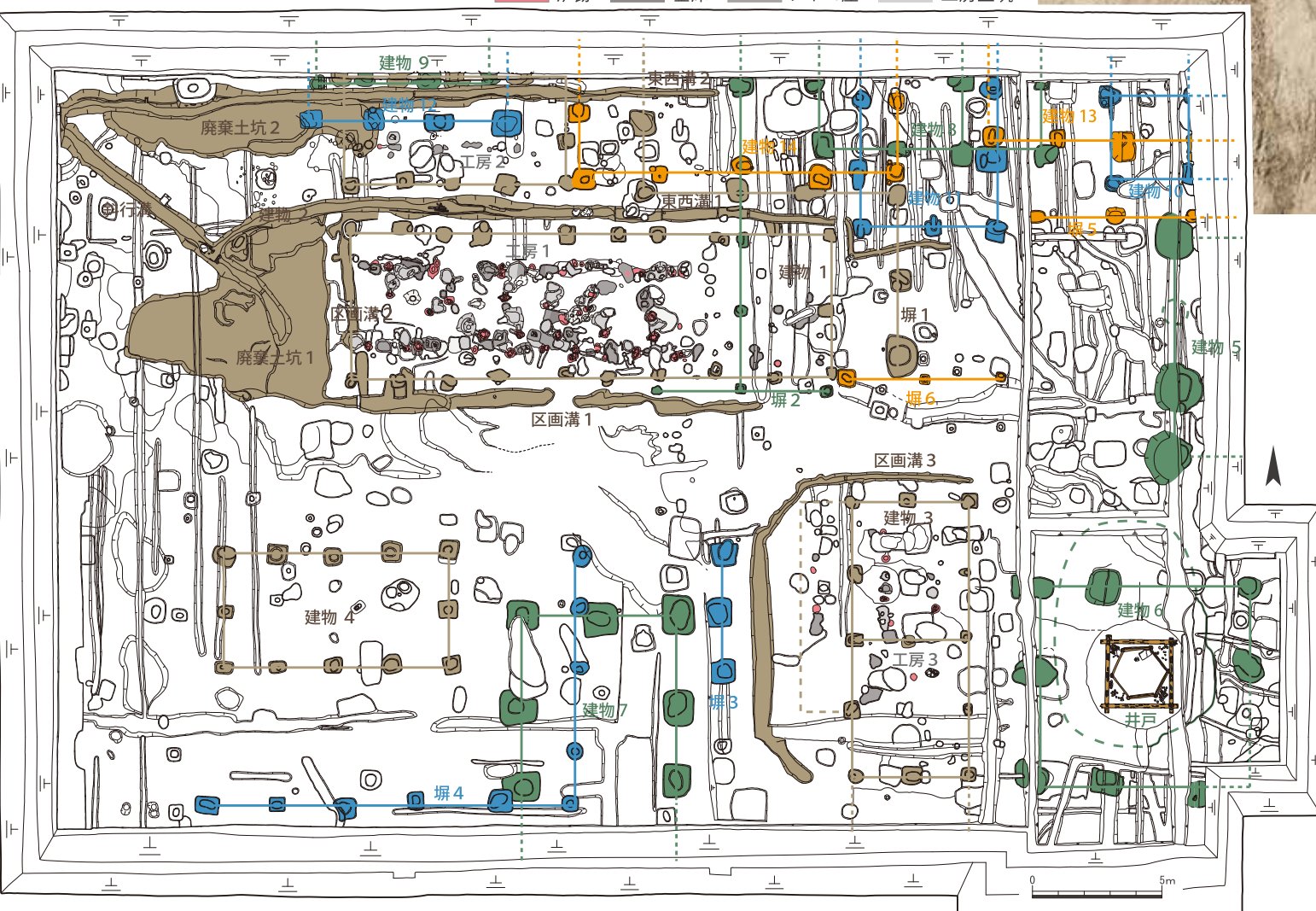


▲(手前から)工房から出土した鉄滓、フイゴの羽口、金床石



▲(左から)工房1の金床石、炉、フイゴ座のセット

■ 炉跡 ■ 金床 ■ フイゴ座 ■ 工房土坑



井戸 井戸枠の上段は方形、下段は六角形という特殊な構造でした。大きさは平城京内でも最大級で、上段は1辺約2.4m、下段(六角形)の1辺は、約1.1mを測ります。井戸からは、木簡や「右相撲□」「□撲司」と書かれた墨書土器、煮炊きに使われた土師器の甕などが出土しました。



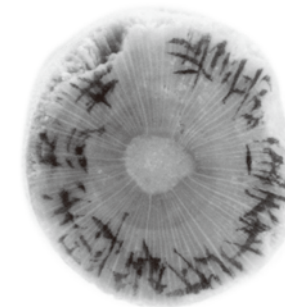
▲出土した井戸(西から)

◀第486次 調査区全景(南東から)

井戸から出土した木簡



棒軸木簡 郡稲出挙の返済未納を集計して報告する公文書の軸の断片です。木口に文書名が書かれています。
 長さ(27) 11・径19mm
 縮尺 4/5



豊前国天平二年郡稲未納帳

(赤外線写真・拡大)

〔三カ〕
 〔表〕 □□廿七 二九五八 一 一九如九
 〔九カ〕 □□六八冊八一 五「主紀郡郡」
 九九木簡 九九を練習した木簡の断片です。今と違い、九九八十一、八九七十二、七九六十三の順に書かれ、九の段の最後は「九九如九」で終わります。
 長さ(22) 11・幅(29) 11・厚さ2mm 縮尺2/3

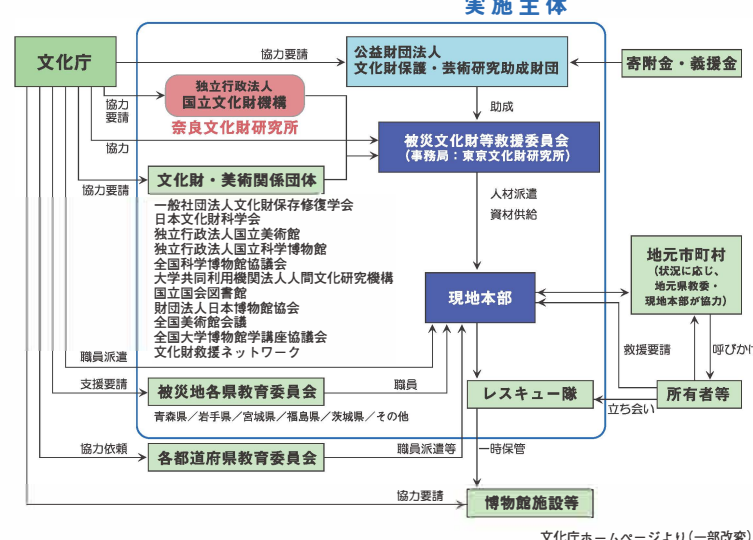
井戸から出土した土器



文化財レスキュー展

昨年3月の東日本大震災では、文化財も深刻な被害を受けました。被災した文化財を緊急に保全し貴重な文化財の消失を防ぐため、全国の文化財関係機関などが集まり「文化財レスキュー事業」が発足しました。震災1ヶ月後の4月下旬から活動を開始し、絵画、彫刻、古文書、考古資料、民俗資料などの文化財・美術品・記録類の救出、応急処置、一時保管などをおこなっています。

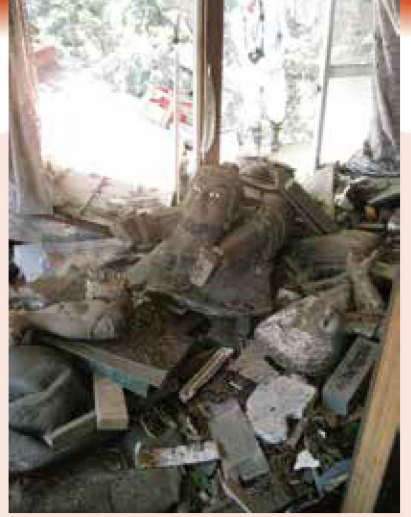
レスキュー事業の体制



▲石巻文化センター 被災後、入り口の様子

現地での救援活動

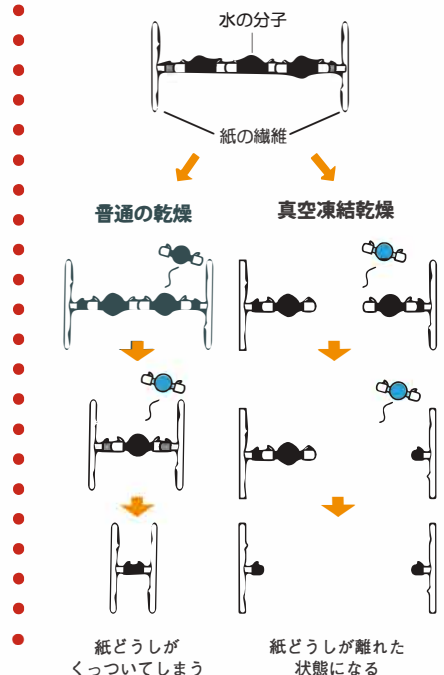
被災文化財のレスキューは、4県70件(2012.2現在)によびます。奈良文化財研究所でも4月から約半年間、研究員が交代で現地に赴き、被災文化財の状況確認、救出・回収、整理作業にあたりました。現地での救援活動は、現在も地元自治体を中心に引き続きおこなわれています。



▲破損した文化財



- 奈良文化財研究所が関わった現地での救援活動
- ①釜石市 1件
 - ②大船渡市 2件
 - ③陸前高田市 1件
 - ④気仙沼市 1件
 - ⑤南三陸町 1件
 - ⑥石巻市 5件
 - ⑦女川町 1件
 - ⑧東松島市 4件
 - ⑨大崎市 1件
 - ⑩亘理町 2件
 - ⑪須賀川市 1件
 - 筑西市 1件



応急的な保存処理

被災文化財の多くは津波の被害を受けました。水にぬれた文書や図面などの紙資料を守るため、「真空凍結乾燥」という技術が使われています。マイナス15度でいったん凍らせてから真空状態にして水分を抜く方法で、ものの形が変形することなく乾燥させることができます。奈良文化財研究所では、トレー約800個分の紙資料を受け入れ(2012.2現在)、真空凍結乾燥とその後のクリーニング処理にあたりています。



水損資料▶

レスキューの作業工程

- ① 事前調査
- ② 救出・回収
- ③ 現場での応急処置
- ④ 記録
- ⑤ 搬送
- ⑥ 応急的な保存処理・保管



▲状態を確認し、レスキュー計画をたてる



▲ガレキやヘド口から文化財を回収する

倒壊した収蔵棚から▶ 収蔵品を取り出す



◀回収した文化財の泥を落とす



▼水損した文化財を乾燥させる



◀番号をふり、記録する

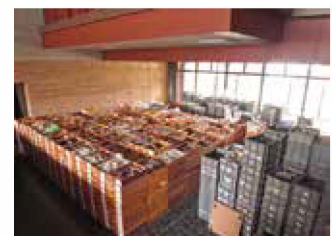
▼ラベルを書き直す



▲梱包し、搬送する



◀安全な場所に保管する



▼乾燥後のクリーニング



真空凍結乾燥▶